

事例番号 28

Keywords: 障害に基づく困難の改善

(1) タイトル

全盲生徒における点字 PDA の活用

(2) 事例の対象となる児童生徒

点字を常用文字とする高等部の全盲生徒

(3) 使用する機器（支援機器）の名称と特長

① 支援機器の名称

KGS 社 ブレールメモポケット (Braille Memo Pocket)

(写真 1)

② 特長

16 マスの点字ディスプレイが付いた PDA である。縦 168×横 80×高さ 20mm、重さ 300g と小型軽量で、持ち運びに便利である。USB やBluetoothでPCと接続し、点字ディスプレイとして使用したり、PCとデータを送受信したりできる。リチウムイオンバッテリーで約8時間の連続使用が可能である。点字文書の読み書き、保存機能に加え、電卓、時計、スケジュール帳などのアクセサリ機能がある。

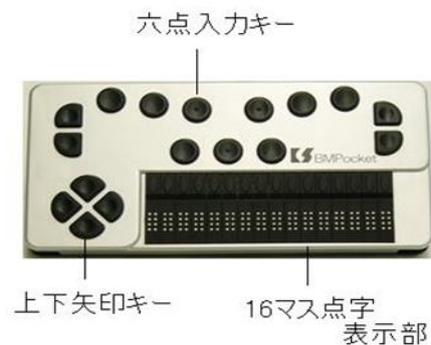


写真1 ブレールメモポケット

(4) 使用した機器を選定した理由

小型で持ち運びに便利である。

日常生活用具に指定されており、他の点字ディスプレイと比較して安価に入手できる。

(5) 選定のプロセス

点字ディスプレイの付いた持ち運び可能な機器は46マス、32マス、16マスなど、幾つか選択肢がある。生徒に概要や特徴を説明した後、学習での活用、就業しての活用、社会参加における活用、購入価格、メンテナンスの受けやすさなど、様々な観点で総合的に判断した結果、生徒はブレールメモポケットを選択した。

(6) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

- ・個別の指導計画は、教科「情報」の「指導の工夫と配慮事項」に、心身機能・身体構造の特性に合わせたPC操作環境の構築として記載する。また、全教科に関係する「指導目標と配慮事項」の項目に、学習の状況を記載する。
- ・個別の教育支援計画は、「学校での生活」の「必要な支援内容」の項目に、関連する学習状況を記載する。
- ・個人データベースに概略を掲載し、関係教職員が閲覧できるようにして共通理解を図る。

(7) 指導の内容

- ・ブレールメモポケットの構造を知る。
- ・各キーの役割を知る。
- ・ブレールメモを使って、点字文書を読む。
- ・ブレールメモを使って、点字文書を書く。

- ・点字文書を編集する。
- ・検索機能を使って目的の情報に素早くアクセスする。
- ・時計機能を利用する。
- ・アラーム機能を利用する。
- ・カウントダウン機能を利用する。
- ・PCと接続して、PCで作成した文書をブレイルメモに転送して読む。
- ・ブレイルメモで作成した文書をPCに転送して再利用する。
- ・PCと接続して、スクリーンリーダーの音声出力をブレイルメモでリアルタイムに確認する。

(8) 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

点字文書データの読み書きができるようになった。

点字文書の管理能力が向上した。

検索機能の活用により、より速く目的の情報にアクセスできるようになった。

スケジュール管理ができるようになった。

(9) まとめと今後の課題

点字を常用文字とする全盲生徒に対して、ブレイルメモポケットを指導したところ、点字文書データの読み書きができるようになり、その結果、点字用紙と点字盤で点字を扱っていたときと比較して、点字文書の管理能力が向上し、点字情報を有効に活用できるようになった。

今後は、サピエ図書館などを活用し、必要な情報を自ら入手して活用させたい。

(10) 文献（引用文献・参考文献）

KGS ブレイルメモポケット http://www.kgs-jpn.co.jp/b_bmpk.html

サピエ図書館 <http://www.nittento.or.jp/index.html>

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。